手づくりのあそび

世界中でたったひとつの楽器

たけぶえ

草笛、葉笛、竹笛などは、身近にある材料を使った簡単な手作りの楽器ですが、今回はその中から竹笛の作りかたについてお話をしてみましょう。

竹笛といっても色々種類がありますが、昔から子供たちの間で作られている、いちばん素朴な竹笛を選んでみました。

さて、ここで、子供のころ竹笛をよく作って遊んだという、市内中黒山に住む天野忠雄さん（五〇歳）に、子供のころを思い出してもらいながら、お話をしてもらいました。

夏休みになるとみんなで天神川へ水泳に行き、その帰り道に竹を取ってきて、作ったそうです。

竹笛は竹と竹の葉で作るのですが、図のように作っても、竹の太さや長さ、葉のやわらかさや長さ、切り込みの位置によってずいぶんちがった音色になり、出来上がって鳴ったときは言葉ではいえない喜びがあったそうです。

材料の竹はメダケ、シノダケでした。「今は材料の竹が少なくなってしまってね。昔はどこにでもあったんだけど……」、福島潟をこよなく愛し、福島潟自然を守る会会員である天野さんは、さびしそうに語ってくださいました。

メダケ、シノダケについて簡単に説明しておきます。メダケ（エチゴメダケ）直径は8～13ミリメートル、高さは3～4メートルに達し北陸地方に多く分布しています。シノダケ（アズマザサ）直径は4～8ミリメートル、高さは1～2メートル、本州・九州に分布し全体としてメダケより小形です。

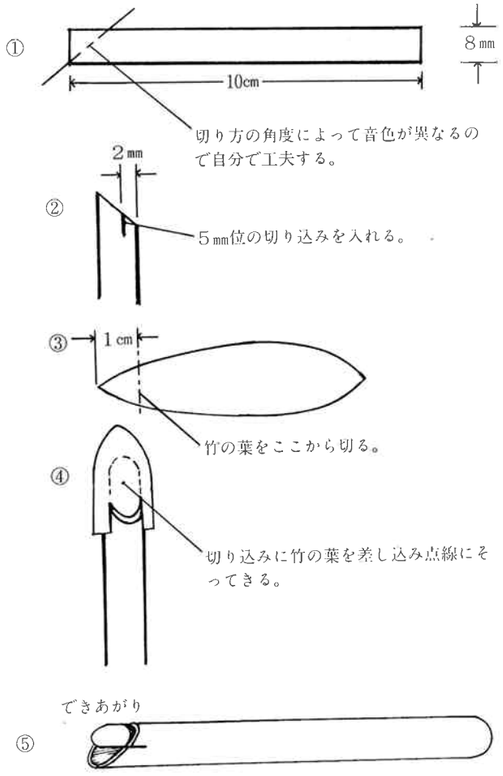
皆さんの家の近くにもあると思いますが、博物館にありますので手にとって観察してみてください。

博物館　渡辺　卓司

たけぶえを吹く子供たち

＜たけぶえのつくり方＞

材料　メダケかシノダケ（10cm）　1本
　　竹の葉（1cm×5cm）　1枚



ぼくらの学校

新星〝銀河〟児童会

早通南小学校

今年の一学期は記念すべき学期でした。第一に全校投票によって銀河児童会というすばらしい名前がついたことです。今まで毎年の役員が言ってきましたが、それをぼくたちが実行したのです。

名前をつけたのなら会旗もと言うので、これも全校投票をして図案を決めました。

このようなことから、今年の児童会はとてもいそがしいものでした。休み時間、放課後を利用して代表委員会や行事の準備をしました。その結果、五時をすぎることもたびたびでした。

それだけ今年の児童会は、活発で活気にあふれているような感じがします。行事があると、ぼくたち児童会から進んで準備をしたり、司会、進行などをします。それに、さまざまな工夫やかざりつけをして、より楽しいものにしようと努力しています。児童会だけでなく、全校のみんなの力を借ります。

二学期になっても、今まで以上にがんばって、より充実した〝銀河〟児童会にしようと三役一同はりきっています。

児童会会長　高橋　哲朗

七月七日、児童会が中心になって行った「七夕集会」で。

通学道路をきれいに

「空き缶ゼロ作戦」が、七月二十一日、市内各地でいっせいに行われました。

今年で三回目のこの作戦には小・中学生約三千六百人も参加、学校までの通学道路などを中心に、汗だくになりながら「空き缶」などのゴミを拾っていました。

交通ルール守って楽しい夏休みを

7月22日、早通南小学校のグランドで「早通地区交通安全親子のつどい」が開かれました。

このつどいは、早通地区で交通事故が多く発生しているため行われたもので、集まった約250人のお母さんと子どもたちは警察のおじさんや、交通指導隊員の話に耳をかたむけていました。